

I 「誠実」の原語の意：忠誠、忠実、誓い、誓約、信じる事、信頼、信仰。

御霊の実は、御父・御子イエス・聖霊なる三位一体の神のご性質を表している。

つまり神は、忠実なお方、誓いを守る方、信頼に足りるお方。

II 私達が主を信じ、御霊なる神が私達の心に宿られ、御霊は、私達に新しい性質を与え、私達を主のご性質に変え続けて下さる。

決して自分の力では、主を信じる事が出来ない私達が、主を信じる事が出来たのも、御霊の実の「信仰」のおかげである。

「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です。』と言うことはできません」

I コリント12：3。

御霊なる神は、私達が主を信じた後も働き続けて下さる。

「私たちはみな、…主の栄光（御性質）を反映させながら…主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです」II コリント3：18。

III 主を信じる前の私達、御霊なる神が心に宿り、清め続けて下さる前の私達は、もっと、不忠実な者、誓い、約束を破る者、信頼を裏切る者、真実でなく嘘、偽りの多い者、誠実でない者、真の神への信仰がない者だった。

※御霊なる神が変えて下さった証し。神の栄光がありますように！

私達には、聖なる希望がある。

御霊なる神は、私達を造り変え、私達を誠実な者に変え続けて下さる。

IV 誠実が大切な理由

1. 神ご自身が誠実な方だから。

神は真に誠実なお方。神の子供とされた私達が、誠実な者、忠実な者、真実な者である事を神は望んでおられる。神が誠実な方でなければ、私達は、心から神を信頼する事は出来ない。しかし、神は本当に誠実、真実な方なので、私達は、心から信じ、信頼する事が出来る。

神は、真に誠実な方で、神の語られる御言葉（聖書の御言葉）は真実なので、誠実な神の御言葉を読み味わい、励まされ、慰められ、戒められ、心が養われる。

2. 神との関係で、神に対して誠実である事は、最も大切な事。

「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており（誠実の反対）、真理は私たちのうちにはありません。もし、私たちが自分の罪

(憎しみ、恨み、悪口、うそ、偽り、ごまかし、不品行、悪いものへの依存)を
言い表す(認め告白する)なら、神は真実(誠実)で正しい方ですから、
その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」ヨハネ1：8，9。
神に誠実であると神との信頼関係は深まる。

3. 自分自身に対しても誠実であるように祈る。

神の前に自分を吟味する。Ⅰコリント11：28。

自分は何に怒っているか？あるパターンは、どこに原因があるか祈り求める。

自分の行いの真の動機は何か御霊なる神に示していただく。

神の栄光の為か？自分の名誉、メンツの為か？等。

「神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思いを知ってください。

私のうちに傷ついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください」

詩篇139：23，24

4. 人に対して誠実である事は、信頼関係に欠かせない。

人に対する誠実は、その人への最高の愛である。

ある責任のある立場に、「ある人を紹介して下さい」と依頼されたら、

どんな人を紹介するだろうか。それは「誠実」な人、信頼できる人である。

- ① 自分の言葉、約束を守る。守れない事情が起きた時は、その理由を、相手に真実に語る。
- ② 時間を守る。ある事情で遅れる時、早目に相手に連絡する。
- ③ お金の貸し借りにも誠実に。たまたま持ち合わせがなく、小さな額でも、お借りした時、忘れずに、早目にお返りする。物も同じ。私達皆に言える事。借りた側は、忘れ易い。対策：目立つところにメモをし、早目に返す。
- ④ 信頼は、小さな事にも誠実、忠実である事の積み重ねで得られる。「小さい事に忠実(誠実と同じ原語)な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です」ルカ16：10
- ⑤ 私達には、多くの悪の誘惑がある。目を覚まして祈りたい。弱さ、欠点、罪の性質のない人はいない。「私は、弱さ、欠点が多く、悪の誘惑にも弱い者です。日々、悪からお守りください」と。主の祈りの大切さを自覚しつつ。「私たちを…悪からお救い下さい」マタイ6：13
- ⑥ 御霊が実らせて下さる誠実を持っている人は、非の打ちどころのない完璧な人の事ではなく(そのような人はいない)、自分のあやまりを誠実に認め、神と人に謝ることが出来る人。自分自身が、そうあり続けることが出来るように祈り続けたい。

V 和解、回復の道がある

1. 神は、これまで、数えきれない私達の不誠実、違反行為を赦して来られた。この恵みを覚え感謝したい。主の十字架の恵みの故に。また、私達が誠実に自分の罪を告白する事を喜ばれる。
「神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです」Ⅱコリント5：19
2. 神に赦され続けている自分を覚え、日々神に感謝し、他の人を赦すことが出来ますように。
3. 神が、不誠実な罪を赦して下さる事を感謝しつつ、罪からきよめられる、罪から離れ、神と人の前に誠実な者に、御聖霊と御言葉の力により変えられ続けることが出来るように真剣に祈り続けたい。

「平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実（誠実）ですから、きっとそのことをしてください」Ⅰテサロニケ5：23, 24